

「すべての世代の想いがつながり、共にワクワクする舞台」
を実現します!!

地域の宝=
地域資源の今と未来のキーワード

体験

- ・食と自然
- ・農林・水産
- ・マリンレジャー
- ・観光船
- ・ぎょしょく

担い手

- ・シルバー人材
- ・未来の子ども達
- ・コンシェルジュ
- ・ガイド、ツアーアイ
- ・ボランティア
- ・地域商社

空間

- ・飲食・宿泊
- ・廃校、空き家
- ・公園
- ・石積み
- ・インターネット
- ・コワーキング

豊かで美しい環境

- ・海ごみゼロ
- ・森と海の循環
- ・再資源化

これら地域資源をつなぎ合わせ、
町を輝かせる物語(ストーリー)を推進します！

案

(*) 海業（うみぎょう）は、海に関わる地域資源の価値や魅力を活用する地域活性化の取組みです

若者が戻らず過疎化が進む町
そんな故郷・愛南町を誇りに思っているだろうか？

掘り起こすほど出てくる自然の恵み
食、伝統、文化、そして人財
今の私たちの幸せは、先人方が築き、守ってきた
この魅力と歴史の上に立っている

今を生きる私たちこそ、
未来の住人にバトンを渡す当事者だ

全世代がつながる新たなチャレンジ、
美しい海や環境を次世代に繋ぐチェンジで、
人と自然が紡ぐ私たちの舞台
共にワクワクする愛南町の未来を創り出そう！

愛南町海業グランドデザイン 「すべての世代の想いがつながり、共にワクワクする舞台」

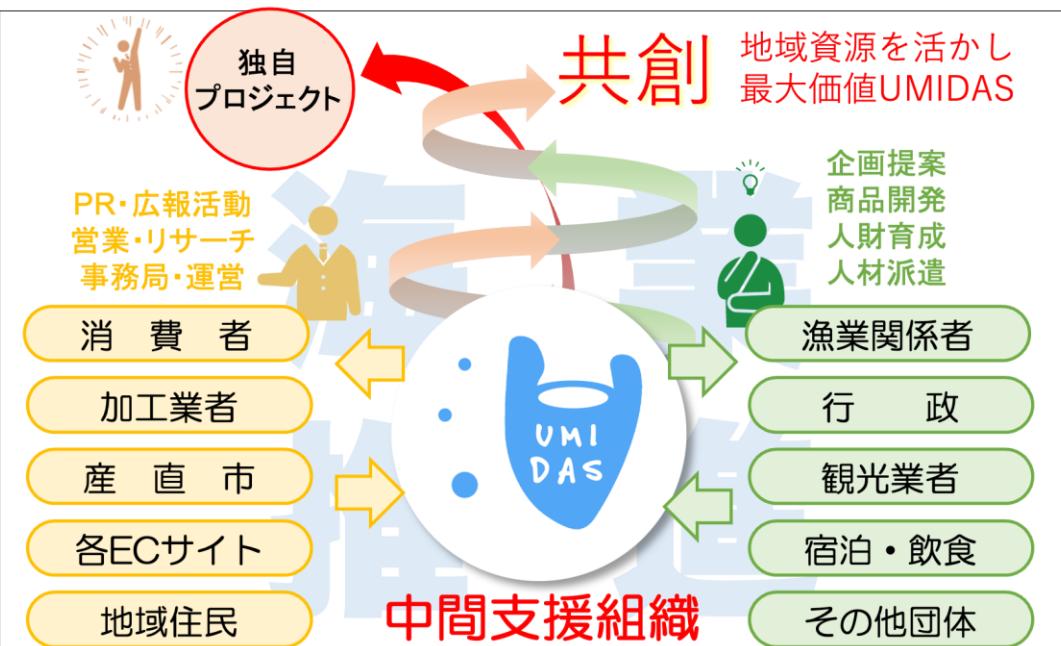
※各プロジェクトは例示であり、今後更新されていきます。また、未定の構想やアイデアも含みます。

地図：国土地理院全国ランドサットモザイク画像



案

「愛南海業コンシェルジュUMIDAS」プロジェクト



【活性化スキーム】



外部から所得を獲得
(バケツの水を増やす)
町内の取引を拡大
(バケツの穴を塞ぐ)

【体制】

海業推進会議委員を中心とした
地域ビジネス共創チーム

直近のスケジュール

	～令和6年度	7年度	8年度	...
任意団体・チームづくり	▶▶▶			
運営委員会の開催数	▶▶▶	▶▶▶	▶▶▶	※事業化に向けた実践的な議論の場へ
コンシェルジュ活動	▶▶▶	▶▶▶	▶▶▶	
人材リンク事業	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶	
ツアー企画の現地調整等	▶▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶	

【背景】コンシェルジュ活動の必要性と海業共創チームの必要性

来訪者に愛南の魅力を紹介・提供するための仕組みが求められている

また、町内のすべての人に「愛南町の海業」を説明、理解してもらい海業推進の仲間を増やし、課題や情報を共有するコミュニティの不足官と民が連動した「海業推進会議」をさらに活発化させ継続する必要

【実施場所】拠点未定

委員の事務所や集会所や公民館を活用（スマールスタート）

【手法】コーディネート・補完・支援人材リンク

企画立案→資金調達（民間投資）→運営（外部所得の獲得）
→分配→地域経済循環率向上

※中間支援（ツアー企画の現地調整や、困りごと解決サポートといったコンサル等）に加えて、組織単独での事業も実施することで、町内関係団体からの協力資源を確保しつつ、外部所得の獲得を図る。

“UMIDAS”の6つの「生み出す」

- U …Umigo-Teams 「海業推進チーム」「海業仲間」を生み出す
- M …Motivation & Money 「モチベーションとお金」を生み出す
- I …Innovation 「イノベーション（アイデア）」を生み出す
- D …Design 「デザイン」を生み出す
- A …Amour 「愛・郷土への誇り」を生み出すニシビックプライド
- S …Sustainable 「サステイナブル地域ビジネス」を生み出す



「人が繋がる、海から始める。インバウンド！AINANツアーゲート」プロジェクト



【目的】

「海外の方が旅行先として愛南町を選ぶようになる」こと。体験者が自身がその「良い物」体験を広げてくれること。

- ・受け入れ態勢の構築
- ・関係者、地域の輪の成長
- ・地元の経済成長

【実施場所】 体験：西海地区全域 宿泊：愛南町内

【内容】

町外事業者、商工観光課、西海観光船の三者で、愛南町が「穴場の場所」と思える、認知・環境づくりを成功させる。
交通手段に難があっても海外の方が旅行地として愛南町を選ぶことに繋がる成功モデルができることで、その情報を町内で共有しつつ関係人口を増やしていく。

【活性化スキーム】



外部から所得を得る
(バケツの水を増やす)

町内の取引を拡大
(バケツの穴を塞ぐ)

【体制】

旅館・民宿・役場・西海観光船との連携事業
将来的には漁業者・教育・大学関係者・飲食事業者にも波及させていく

直近のスケジュール

	～令和6年度	7年度	8年度	...
事業内容検討		▶▶▶▶		
試行ツアーの実施	○ (7~10月)			
課題抽出・改善検討		▶▶▶▶		
事業主体検討		▶▶▶▶		
プログラムの確立・実装	▶▶▶▶			

【手法】

①短期目標：【海外の方が「良い物」と認識できる、価値のあるツアー生成】

海の体験・宿泊・食べ物・環境保全を掛け合わせた1日体験ツアー
スノーケル、ダイビングを主体に想定。船、シーウォーカー等の
アクティビティはオプションで選べる形に。
半日～1日、専属でガイド。通訳は地元の方に協力いただく。

②中期目標：【宿泊事業者、陸上ガイド等、事業者間の連携を作る】

成功モデル継続、紹介、新モデルを造成しながら関係者を増やす

③大きな目標：【海外の方が旅行先として愛南町を選ぶようになる】

- ・地域での受け入れ体制構築
- ・関係者地域の輪の成長
- ・地元の経済成長

新たなツアー造成による地域事業者の参加を増やし、活動の輪を広げて、地域全体での受け入れ体制を構築。愛南町の地域経済活性化と未来の住民獲得も視野。

案

「愛南町盛旬満喫スタンプラリー」プロジェクト



【目的】 びやびやもん「盛旬満喫メニュー」を1万食提供し、1万人に感動を与える。

愛南の様々な場所を巡りたくなるよう仕組みとして、町内の飲食店、観光スポット、物販店などと接点を生み出しながら、何度も愛南に足を運びたくなるイベントを実施する。観光客へ観光動線の案内（パンフ効果）も果たす。

【事業内容】

町内の観光施設、産直市、景勝地、宿泊施設などを対象としたスタンプラリー企画

愛南の魅力を紹介しつつ、観光客や地元住民自身に「愛南町を満喫するルート」設定してもらい、より長い滞在と再訪を促す企画。

スタンプを貯めるほど高額景品（愛南町特産品・施設利用券・食事券）が当たる。景品は、AINAN STANDや漁協ECサイトなど全て町内の企業、商店から愛南町の特産品を仕入れ、地域経済の活性化、ファンづくりにもつなげる。

協力店との一体感を作り出し、大きなトラブルが起こらない仕組みづくりと誰にも大きな負担がかからない運営を目指す一方で、今回初めてデジタル化も図り、アナログ版のスタンプラリーと連携して情報整理の効率化や参加率アップを狙う。

【活性化スキーム】



外部から所得を獲得
(バケツの水を増やす)

町内の取引を拡大
(バケツの穴を塞ぐ)

【体制】

「愛南びやびや広め隊」が主催
＞愛南町観光振興等イベント補助事業

直近のスケジュール

	～令和6年度	7年度	8年度	..
企画・運営		>>>		
イベント実施期間	(6月1日～12月末)			
抽選会・景品発送		>>>		
毎年実施する			→	

【背景】 愛南町のトップブランド鰐「愛南びやびやかつお」を広くPRしたいというニーズと、愛南町の他の魅力も紹介したいというニーズを抱き合わせて、令和4年度に開始した企画。海業の一プロジェクトとして、内容の充実と連携拡大を図る。

【実施場所】

＝愛南町全域

ゆらり内海、お食事処なにわ、愛南市場食堂、炭焼き船波、一本松あけぼの荘 西海観光船、山出温泉、道の駅みしょうMIC、緑新鮮市、フレッシュ一本松 須ノ川公園、高茂岬、紫電改展示館、松軒山、篠山学習館、南宇和民宿ホテル組合協力店、協力宿泊施設、愛媛飲料組合愛南支部協力店（予定）

【手法】

町内の協力店舗にスタンプ台紙の配布とQRコードの設置を依頼し、利用者への参加を促してください。愛南町観光振興イベント事業の一環として実施する。



「愛南町ブルーカーボンプロジェクト」

ウニッコリー



ブロックリーを食べるガンガゼ



沿岸域の藻場



真珠母貝養殖筏（幹縄筏）



幹縄筏に繁茂する海藻

【目的】町内沿岸域で衰退している藻場の回復を図るため、要因の一つであるガンガゼウニを適正密度に保つこと、真珠養殖筏に繁茂する海藻で取得したJブルークレジット®認証の範囲を拡大することで、海中の炭素吸収源を増加させる。これにより、真珠母貝養殖業全体の活性化を図るとともに、特産品を提供することで、町内水産物全体の付加価値向上を目指す。

【想定する事業内容】

ガンガゼウニを駆除すると同時に畜養し、愛南町の特産品ブロックリーと、河内晩柑の廃棄部分を給餌することで、ウニッコリーとして生産・販売する。

また、ウニッコリーの生産・加工体験を来訪者に提供することで体験料収入を得るとともに、事業実施の外部化を図り、外部所得を獲得する。

さらに、「未来に繋ごう！真珠のふるさと愛南町～幹縄筏が生み出すブルーカーボンプロジェクト～」として認証されたJブルークレジット®の維持・拡大を図り、得られたクレジットを海業に使うことで、更なる取組を促進する循環を生み出す仕掛けを構築する。

【活性化スキーム】



担い手 空間

豊かで美しい環境

外部から所得を獲得
(バケツの水を増やす)

町内の取引を拡大
(バケツの穴を塞ぐ)

【体制】

漁協、漁業者、愛媛大学と愛南町、愛南の藻場を守る会との協働

直近のスケジュール

	～令和6年度	7年度	8年度	...
藻場回復事業 (ウニッコリーの生産)	➡ (毎年 11月～6月)			
生産事業の自立自営化	➡➡➡			
Jブルークレジット®認証 範囲拡大	➡➡➡			
Jブルークレジット®購入 希望者の公募 (5年度分)	○ (～4月)			

【背景】脱炭素化社会に向けた取組を促進させ、町内全体を活性化させる取り組みが求められている。

【実施場所】ウニッコリー生産場（西海地域）
真珠母貝養殖場（主に内海地域）

【手法】

ガンガゼの駆除については試験区を設定し、駆除作業とともに、海藻種苗や母藻の投入も同時に実施して、藻場造成の効果を測る。駆除したガンガゼの一部をウニッコリーとして活用し、生産効率や品質向上に関する調査・分析を実施するとともに、適切な事業実施主体の育成と生産拠点の獲得により、事業の自立自営を図る。

Jブルークレジット®認証については、令和5年度に内海地域の家串湾内の真珠母貝養殖筏に繁茂する海藻にて取得したため、同様の調査（ドローンによる空撮、画像解析、単位面積当たりの湿重量の計測等）を家串湾以外の地区でも実施することにより、クレジット対象範囲の拡大を図る。

案

「愛南ぎょしょくツーリズム」プロジェクト



【目的】 全国有数の水産基地・愛南の水産業を存分に味わう体験プログラム 「ぎょしょくツーリズム」を構築することにより、「ぎょしょく」発祥の地・愛南町をPRする。サマースクールなどの教育旅行や社員研修等の受入れにより、交流人口増加と海洋人材育成を図る。

【想定する事業内容】

町内で展開している7つのぎょしょく（魚職、魚触、魚色、魚殖、魚食、魚飾、魚植、）を、通年で一般来訪者にも紹介し、体験してもらう。水産物は町内で仕入れ、イベントと恒常的な内容とを検討して提供する。

- ・カツオの一本釣り疑似体験
- ・本物の魚に触る体験
- ・養殖場見学・餌やり体験
- ・愛南の魚と環境を知る座学
- ・海の産物を使用した工作体験（真珠やヒオウギ貝など）
- ・調理実習 等



【活性化スキーム】



外部から所得を獲得
(バケツの水を増やす)

町内の取引を拡大
(バケツの穴を塞ぐ)

【体制】

愛南町ぎょしょく普及推進協議会事務局
(愛南町役場)との協働

直近のスケジュール

	～令和6年度	7年度	8年度	..
事業内容検討		▶▶▶		
試行ツアーの実施	○(8~9月)			
課題抽出・改善検討		▶▶▶		
事業主体検討		▶▶▶		
プログラムの確立・実装	▶▶▶			

【背景】 産学官の連携プロジェクトである「ぎょしょく」活動の20周年を機に、これまででも目標に掲げていた新たな事業を展開。

【実施場所】 うみらいく愛南、協力養殖事業者、各漁協等

【手法】

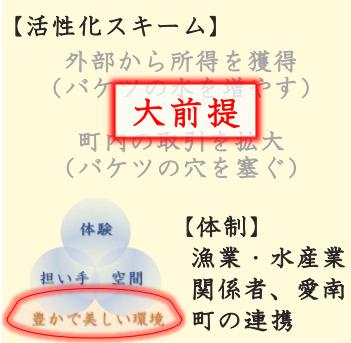
現在実施している「ぎょしょく」教育プログラムを分析し、一般来訪者向けの体験プログラムとして提供するために必要な人員や資金等の計画を作成する。合わせて試行ツアーを企画・実践することにより事業性評価を行い、課題の抽出と内容の深化を図る。事業性評価については外部専門家に助言を依頼する。

事業内容を「ここでしかできない体験」プログラムに昇華させつつ、農林業などの他の体験プログラムや宿泊施設、観光施設等との連携による内容の充実を図る。

実装に当たっては、「ぎょしょく」で培った教育関係機関や事業者による顧客獲得に努める。

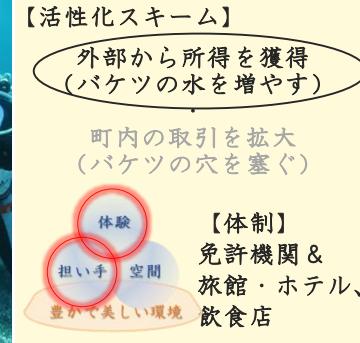
案

クリーンオーシャンプロジェクト



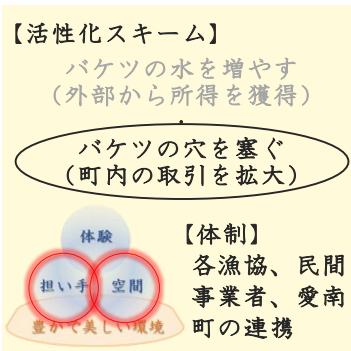
【内容】 愛南町内に漂着するごみは、生態系への悪影響や景観の悪化につながる。このため、来訪者に選ばれる町になるためにも、海洋環境保全と美化に取り組まなければならない。ボランティアをベースとしつつ、委託事業も活用しながら、愛南町内の沿岸部に溜まっているごみを回収・処理に取り組む。

海の免許合宿：海に関するライセンスは愛南で



【内容】 現在実施されている小型船舶免許講習や、スクーバーダイビングライセンス取得コースなど海に関するライセンスをまとめて取得できる合宿を企画。合宿期間中に滞在する旅館やホテルへの宿泊、地元の飲食店の利用を促し、外部からの所得増加を図る。

水産物生産、仲卸、小売、飲食コミュニティの構築



【内容】 水産物やその他の食品を取り扱う生産から加工・流通、小売、飲食等の事業者が定期的に集まるコミュニティを構築し、それぞれの強みを生かし、連携することによる新たな商品開発や、販路の開拓等に取り組む。直売所の設置なども想定される。

【その他議論した内容のうち重要と位置付けられたもの】

- 海の生物を自分で探って学ぶエコツアーの造成（子供向け、大人向け）
 - 都会の小学生向けサマースクールの開講（海の生物を利用した体験教育）
 - 愛南町版キッザニア（一次産業を含めた子供の職業・商業体験）
- 体験**
空間
担い手
- 廃校を活用した宿泊施設、水族館等の整備、古民家の改修
 - 愛南町の写真や、漁業・養殖業の資料を展示・保存する海の博物館の整備
 - 廃棄水産物を肥料化するなどの再資源化施設の整備
- 体験やガイドのメニュー化による着地型観光の構築
 - 飲食・宿泊、アクティビティ運営事業者のネットワーキング（おもてなし体制）
 - 天候不良で体験が中止になった場合のアフターケアの充実

豊かで美しい環境

- 若者向けの就業機会・雇用の創出や居住環境の整備
- 海ごみの無い美しい海のまち愛南町の実現（何度も来たいと思える町）

愛南町海業推進会議委員

案

(50音順、敬称略、令和6年3月時点)

浦崎 慎太郎 (浦崎真珠)	大石 常也 (遊漁船業)	大野 甲子彦 (株)大野新聞/TMKstudio)	大森 安洋 (愛南町商工観光課)	河野 仁 (マルエムフルーツアイランド)
凝地 世矢 (有)凝地)	後藤 理恵 (愛媛大学)	佐伯 謙 (南宇和金融協会)	澤近 圭亮 (愛南漁業協同組合)	関根 麻里 (元地域おこし協力隊)
高橋 翔 (西海観光船)	田中 純樹 (愛媛CATV愛南支局)	田中 翔 (合同会社DIVE愛南)	永元 将博 (食品加工業)	濱 哲也 (愛南町水産課)
浜辺 隆博 (愛南町海業推進室)	濱本 涼 (久良漁業協同組合)	深掘 穀 (株)グリーンエンタープライズ	前田 真 (愛媛大学)	向田 和広 (有)向田水産)
森 裕之 (ゲストハウスカタク舍)	山本 正文 (愛南町環境衛生課)	ヤング 亜由美 (愛南町商工会)	李 銀姫 (東海大学)	若松 隆仁 (長月小学校)

会議発足からのグランドデザイン策定までの流れ

